

令和 8 年 第11回

東京都教育委員会定例会議事録

日 時：令和8年7月9日（木）午前10時

場 所：教育委員会室

令和8年7月9日

東京都教育委員会第11回定例会

〈議 題〉

1 議 案

第48号議案

東京都立第一商業高等学校の改編に関する基本計画について

教 育 長

坂 本 雅 彦

委 員

秋 山 千 枝 子

委 員

北 村 友 人

委 員

宮 原 京 子

委 員

高 橋 純

委 員

萩 原 智 子

事務局（説明員）

教育長（再掲）

坂 本 雅 彦

次長

末 村 智 子

教育監

瀧 沢 佳 宏

総務部長

山 本 謙 治

高校改革推進担当部長

布 施 竜 一

（書 記）

企画部教育政策課長

山 岸 武 尊

開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【教育長】 ただいまから、令和８年第11回定例会を開会します。

本日は、毎日新聞社ほか２社からの取材と、３名の傍聴の申込みがありました。また、毎日新聞社ほか２社から、冒頭のカメラ撮影の申込みがありました。許可してもよろしいでしょうか。—— 〈異議なし〉 ——では、許可をします。入室をしてください。

<入室・カメラ撮影>

日程以外の発言

【教育長】 議事に入ります前に申し上げます。

東京都教育委員会において、一度注意してもなお議事を妨害する場合には、東京都教育委員会傍聴人規則に基づき退場を命じます。特に誓約書を守ることなく、退場命令を受けた者に対しては、法的措置も含めて、厳正に対処します。

なお、拍手等により可否を表明することや、入退室する際に大声で騒ぐ、速やかに入退室しないといった行為も退場命令の対象となります。

議 事 録 署 名 人

【教育長】 本日の議事録の署名人についてですが、萩原委員にお願いします。

前々回の議事録

【教育長】 ６月11日の令和８年第９回定例会議事録については、既に御覧いただいたと思いますので、よろしければ承認いただきたいと思います。よろしいですか。—— 〈異議なし〉 ——では、６月11日の令和８年第９回定例会議事録については承認いただきました。

また、６月25日の令和８年第10回定例会議事録を配付していますので、御覧いただ

き、次回の定例会にて承認いただきたいと思います。

議 案

第48号議案

東京都立第一商業高等学校の改編に関する基本計画について

【教育長】 それでは、第48号議案「東京都立第一商業高等学校の改編に関する基本計画について」の説明を、高校改革推進担当部長からお願いします。

【高校改革推進担当部長】 それでは、第48号議案、東京都立第一商業高等学校の改編に関する基本計画について説明します。

本議案は、商業高校改革の一環としまして、第一商業高校を新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとし、その基本計画を策定するものです。

本件につきましては、5月28日の定例会におきまして、基本計画案をお示しして報告した後に、同日から6月26日までの間パブリックコメントを実施しました。都民から御意見を頂くとともに、内容のブラッシュアップなども図っています。寄せられた御意見につきましては、主な意見要旨と、東京都教育委員会の考え方としてまとめて、本日参考資料としてお手元に配付しています。

まず、パブリックコメントで頂きました主な意見要旨を踏まえまして、記載内容を変更した部分を2点説明させていただきます。

1点目ですが、指導陣には外部人材を積極的に活用した方がよいといった御意見を踏まえまして、基本計画の本文9ページの4番、外部人材の活用の部分を具体的に、国際金融の知見を有する大学の教授や企業等の実務家という表現を記載させていただきました。

続きまして2点目ですが、実施する教育内容について、専門性の高い指導内容が求められるのではないかという御意見を頂きました。こちらの意見を踏まえまして、17ページの教育環境の整備の項目について、元々の案は施設整備のハード面の記載しか

なかったのですけれども、こちらに教員育成の項目を設けまして、教員の専門性の向上や、国際バカロレア機構が指定するワークショップの受講など、必要な取組について追記をしています。

その他の意見につきましては、参考資料としてお手元に配付しています、意見募集の結果を御覧いただければと思います。

それでは、議案資料の説明に入らせていただきます。本日は概要版で説明させていただきますが、必要に応じて本文も御覧いただければと思います。

こちらの計画の作成に先立ちましては、令和7年11月から、都立高校の魅力向上等に係る懇談会を設置していきまして、魅力ある都立高校の在り方の議論を重ねてまいりました。この中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりや、既存の枠にとられない柔軟な専門教育の必要性についての提案がありまして、学校や大学関係者のほか、金融業界等の外部有識者の意見なども踏まえながら、教育庁内で検討を重ねてまいりまして、今回、計画案を作成しました。

資料の左上にあるとおり、社会のグローバル化、金融・経済の高度化などによりまして、ビジネス人材に求められる力は大きく変化しています。こうした背景を踏まえまして、上段右側ですけれども、今後の商業教育に求められるものとして2点挙げています。一つは、実社会と結びついたキャリア形成を支える教育など、時代が変わっても決して変わることのない普遍的な価値を有している点があります。その一方で、これからの社会で活躍するためには、国際社会の構造を多面的に理解する力や、国際的な視点で自らの役割を考え行動する力が、これまで以上に必要になってくること、また生徒の進路ニーズの変化なども踏まえまして、専門性を更に深めるための大学等における高度な学びへの円滑な接続が重要と捉えています。

これらを踏まえまして、資料下段にありますとおり、商業教育の中核的価値を基盤としまして、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として、都立第一商業高校を改編することとしました。改編後につきましては、国際金融教育と国際バカロレア教育を実施することにより、新たな専門的な学びを展開してまいります。

次のページを御覧ください。

右側には、改編後に設置するコースごとのカリキュラムの特色を記載していきまして、

国際金融を学ぶグローバル・ファイナンスコースですけれども、大学での高度な学びに円滑に接続するための確かな基礎力や、探究力等を育成することが重要だと捉えています。そのため、文系理系に偏らず、また国際金融の学びを理解するためのツールとなる数学や英語などを強化したカリキュラムとする予定です。国際バカロレアコースでは、探究中心の学びによる論理的思考力の育成や、国際社会で様々な人と協働する学習を実施してまいります。

次のページを御覧ください。

基本的枠組みです。学校名については今後検討し、決定してまいります。

課程ですが、全日制普通科としまして、先ほど申し上げた二つのコースを設置することとしています。

改編時期ですが、令和10年度を予定しています。

決定後、本計画に基づきまして具体的な検討を進めつつ、都教育委員会のホームページや、8月にあります都立高校の合同説明会などを通じまして、中学生・保護者の方々へ積極的な周知を進めてまいりたいと考えています。

説明は以上です。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 御説明ありがとうございました。パブリックコメントも集めて、それに基づいて少し修正をされて、内容についてはだいぶ具体性ができてきたと思います。前回も質問をして確認させていただいたのですけれども、このスケジュールの入学者選抜に向けた考え方が、どのくらい今、検討が進んでいるかが一つの質問と、それに伴って、今年度から来年度にかけて御説明をするということなので、どのようなポイントを御説明するのか、それから今いらっしゃる高校の生徒さんとどのようにうまく移行していくのか、もし今のところ決まっていることがあれば教えてください。

【高校改革推進担当部長】 入試の仕組みですけれども、今、内部で検討しています、ただ、前回にも委員からお話があったとおり、なるべく早く中学生には周知したいと考えていますので、検討を、例えばバカロレアであれば国際高校の事例なども参考にしつつ、また他の学校、都立高校の状況なども参考にしつつ、今、詰めている

ところでして、また時期がまいりましたら皆様に説明したいと考えています。

説明のポイントとしまして、特に中学生を対象に考えると、なるべく分かりやすく、この学校に興味を持ってもらえる説明の仕方については工夫していきたいと思っています。

それから、3点目の在校生との交流についても、並行して今の学校とも検討を進めていまして、在学生の方々にも新しい学校の生徒さんたちとの授業の内容でうまく連携を図れないかについて検討していますが、具体的にはまだこれからです。

【宮原委員】 検討いただいてありがとうございます。特に入学者選抜については、大変特徴のあるカリキュラムを用意しているものの、公立の都立学校の役割の意味でいうと、様々な、多様な可能性のある生徒さんにしっかりとこのような国際金融あるいはバカロレア、こういったコースに興味のある生徒さんに入っていただきたいと思っていますので、中学の時の成績だけで決めるのではなくて、将来の学びの姿勢や、やってみたいこと、可能性についてもしっかりと確認できる選抜にしていきたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

北村委員、お願いします。

【北村委員】 御説明ありがとうございます。非常に魅力的な学校ができるのだなと楽しみにしていますが、以前に工科高校の改革を大きく行い、そして今回こうして第一商業、商業科はほかにもありますので、もちろん今回の第一商業の改編がメインの課題ではあるわけですが、そういった様々な職業科に関して、今まで東京都として新たな取組をしてまいりましたので、また商業科についても、この第一だけが変わって、ほかは変わらないことがないように、是非、ここで行っていることとどう差別化したり、またシナジーを生むのかも検討しながら、第一だけが変わるのではなく、商業科、東京都の都立高校における商業科の教育の拡充、充実、発展を是非お考えいただきたいというコメントが一つです。

もう一つは質問なのですが、コースを二つ立てて、この二つの関係性、考え方、理念的には非常によく分かるのですが、例えばバカロレアで行うような探究的な学びをグローバル・ファイナンスの子たちも授業を取ったり、そのような機会

もあるのかと思うのですが、同時に国際バカロレアは、グローバル・ファイナンスはカリキュラムを見ると基本的にはやはり通常の教科があって、そこに新たな視点が加わっていると思うのですが、国際バカロレアの場合はどうしても、いわゆる学習指導要領の教科に基づくよりは、国際バカロレアのプログラムを行うことになるので、いわゆる学習指導要領に基づいて基本的な教育を受けるグローバル・ファイナンスの子たちが国際バカロレアの授業を取ったり、あるいは逆ですね。これがどのようにうまく共有されるのかが、考え方としては非常に大事だと思いますが、非常にチャレンジングかと思うので、どのようにお考えになっているのかを教えてくださいたいです。

【高校改革推進担当部長】 おっしゃるとおり、プログラムは教育課程的な縛りなどもありますので、少しハードルが高いと認識しています。一方で、例えば何かの発表会や、若しくは外部の方から来て講演を聞く、シンポジウムなどについては、どちらの生徒にも役立つ点はあると思いますし、それぞれの発表をお互いに見るなど、相互に考え方を学んで、更に高めていくことは一つ考えられると捉えています。授業面については、おっしゃるとおり、課題というか難しさもあるのは事実なのですが、その中で何ができるかは引き続き検討していきたいと思っています。

【北村委員】 ありがとうございます。今おっしゃった機会の共有は是非積極的に行っていただきたいのと同時に、やはりせっかく第一商業高校を改編するわけで、その中に二つ別々のコースが立ってしまうことにならないように、かなりハードルが高い部分はありますが、何とか工夫して、この二つがやはり一緒にあるからこのような学びができるのだというものを作っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【教育長】 瀧沢教育監、お願いします。

【教育監】 今の御指摘は非常に重要だと考えています。都立高校の中にも、御承知のとおり、国際高校で既に二つ、レギュラーコースとIBを設置していますし、世界に目を向けますと、世界中にIBコースは多数あるわけで、どの学校でもそのような、バカロレア機構はその学校の中で一体として方向性を共有して学校運営を行うことを求めていますので、今の北村委員からの御指摘は恐らくこれからIBからも

非常に高い要求水準が求められます。我々もそれは心して準備をしていますので、いわゆるここで言うグローバル・ファイナンス科の生徒たちにも、そのような方向性が共有されるカリキュラムになるように、しっかり取り組んでいきたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】 大変意欲的な取組の御提案だと思っています。パブリックコメントもしっかり受け止めていく必要があると感じています。ただ、内訳を見ますと、35人、一番多いのが学校関係者ということで、内部の方というか、ずっと具体的にお支えになった方の御意見が多いのではないかと感じています。

私自身は、今回の改編を、A I の時代という新しい時代に向けて、学校の在り方を根本から見直して設計し直す取組だと受け止めています。検定で測られるような能力は、答えがはっきりしているだけに、今後A I に代替されやすい領域です。かつて計算が電卓に置き換わったように、こうした知識や技能は、習得すること自体よりも、それを活用して更に高度な課題に取り組むことへと重点が移りつつあると整理されています。そう考えますと、検定や基礎・基本の学びは大切にしつつも、それを上回る能力の育成を期待して学校が設計されている、そのように受け止めています。

その上で、意欲的だということの一つの表れが、カリキュラムで、私は高校に詳しくないのですが、34時間というのはやや多いようにも思うのですが、これが実際収めることは可能なのですか。また、少し矛盾しますが、やはり全体を見渡すと、情報系というか、具体的なカリキュラムの中に情報に関するA I の勉強などがややない中で、フィンテックなどに対応できるのか。やや矛盾するようですが、勉強しなければいけないことが増えて、時数もやや多めに感じる中で、やや不足している部分があります。それが商業高校という枠組みと、普通科という枠組みの変化とも強く関係しているように思うのですが、この辺りの時数の関係は、分野、情報も四つの柱のうちの一つになっているのに、やや少ないか、それが普通科にせざるを得ない事情なのかなとも思ったりするのですが、カリキュラムの設計の考え方について伺えればと思います。

【高校改革推進担当部長】 教育課程につきましては、正にこちらにも案と書いて

あるとおり、今、検討中のところもあるのですけれども、今は構成案として示しています。授業時数についても、こちらについては、今、大学の有識者の方などにいろいろ御意見も頂きながら詰めているのですけれども、現状であれば34時間ぐらい必要なのかと捉えています。少し多いという御意見も今頂きましたので、精査できるところがあるかは考えたいと思いますけれども、現状としてはこのぐらいの時数が必要ではないかと捉えています。

情報についても、確かに13ページの下段、カリキュラムのポイントで、フィンテック等情報と記載はありまして、意識はしているのですけれども、授業時数として書いてある部分ではさほどないのではないかという御意見を頂きました。この辺りも少し大事な要素だと我々としても捉えていますので、この後教育課程を詰めていく中で、学校とも検討を進めながら時数について考えていきたいと思っています。

【高橋委員】 コメントになりますが、この時間数だと土曜日も行うのかと思ったりして、それもそれで一生懸命勉強したい中学生にとっては魅力的と考えられるかもしれないので、いろいろ調査しながら進めていただければと思います。とにかく期待していますので、是非進めていただければと思います。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 御説明ありがとうございました。グローバル・ファイナンスコースや国際バカロレアコースの設置は、これからの時代に必要な力を育てる取組として期待しています。これまでも都立高校は、工科高校など、専門性、特徴を出すなど、改編をしてきたと思います。今後も時代の流れに合わせて改編することは出てくると思います。魅力ある都立高校を目指していかなければなりません。この改編についてのノウハウを、是非丁寧に蓄積をして、活用していただきたいと思います。

よろしくお願いします。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 御説明ありがとうございました。すごく意義のある取組だと思うので、とても楽しみにしています。外部の専門家から学ぶ機会を充実させていくのは、すご

くいいことだと思っているのですその反面、この学びを学校全体で教育として継続していくためにも、子供たちと向き合っている教員の皆様の役割は大きくなると思います。教員の皆様が学び続けられる環境が本当に整えられるのか、心の部分でポジティブにそれを捉えていらっしゃるのかなどが大事になってくると思います。改編することに関しては、現場の方たちも、分からないことも多いと思うので、不安になっていらっしゃる先生方もいらっしゃると思います。丁寧に進めていただければいいと思っています。

もう一つ、保護者側からすると、進学するに当たって、新しい学科ができ改編されることで、何を学べて、どう生かして、どのような選択を将来できるのかを、具体的に、言葉だけではなくて、イラスト等も使って分かりやすく説明会等も開いていただければと思っています。

以上です。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

ほかに御質問・御意見はありませんようですので、本件につきまして原案のとおり決定してよろしいでしょうか。—— 〈異議なし〉 ——では、本件につきましては原案のとおり承認をいただきました。

参 考 日 程

(1) 教育委員会定例会の開催

7月30日（木）午前10時

教育委員会室

【教育長】 次に今後の日程について、教育政策課長からお願いします。

【教育政策課長】 次回の教育委員会は、7月30日木曜日午前10時から教育委員会室にて開催したいと思います。

【教育長】 ただいま説明がありましたとおり、次回の定例会については7月30日木曜日午前10時から開催したいと思います。よろしいでしょうか。—— 〈異議なし〉 ——

では、次回の定例会は今申し上げたとおり 7 月 30 日 午前 10 時からとなりますので、
お間違いのないようにお願いします。

以上をもちまして本日の教育委員会を終了します。ありがとうございました。

(了)

(午前 10 時 25 分)